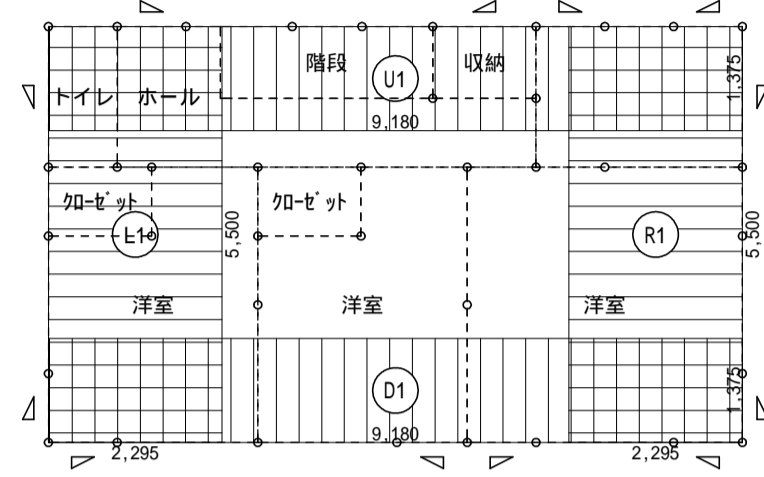
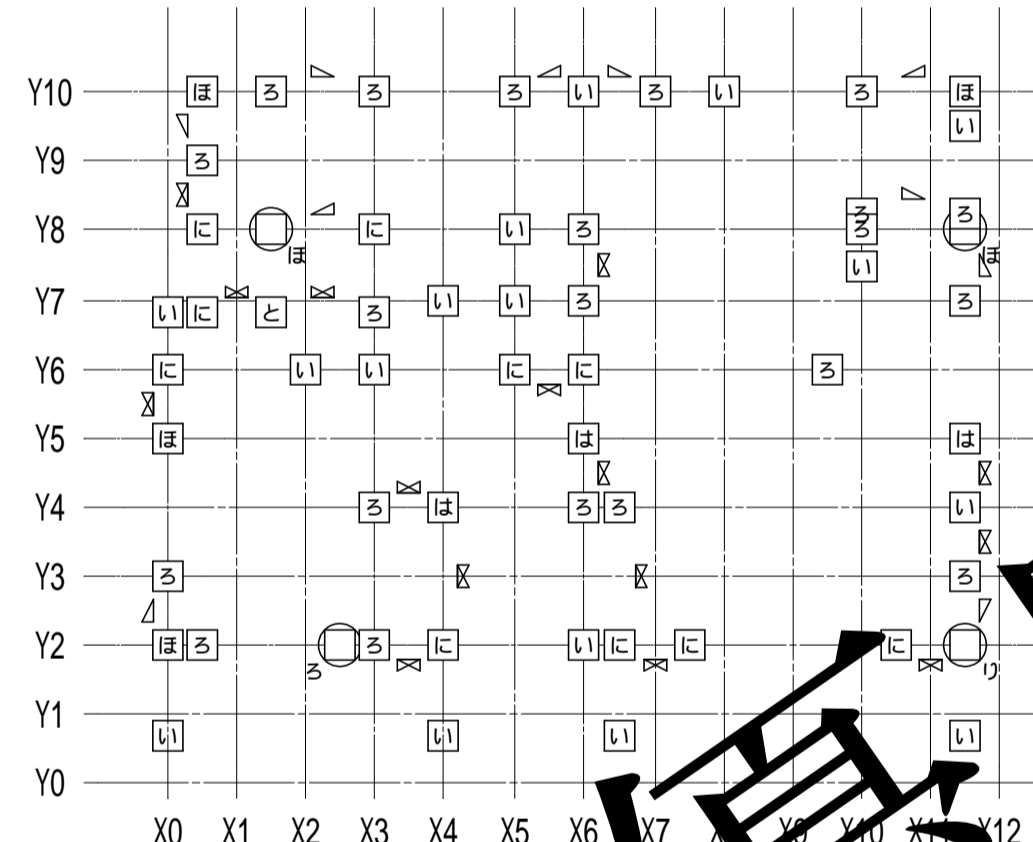


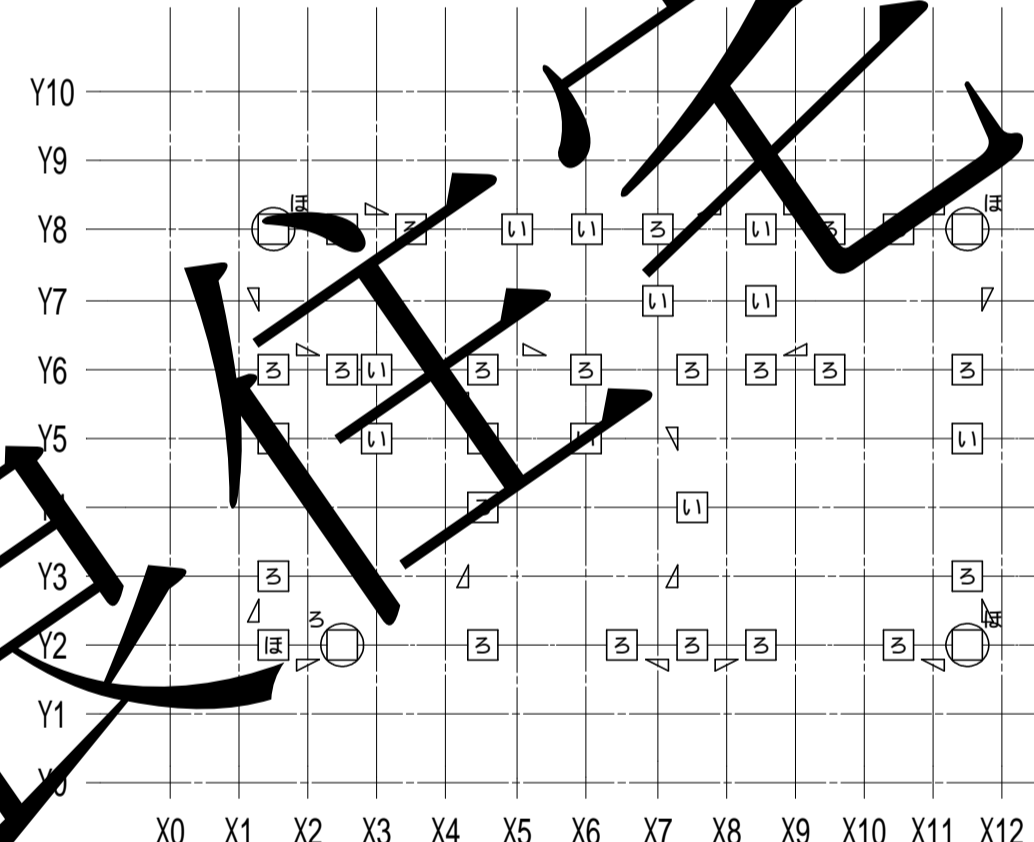
1階壁釣り合い算定図



2階壁釣り合い算定図



1階柱壁伏図



2階柱壁伏図

側端部分床面積算定表

階	方向	床面積 m <sup>2</sup>	物置等 m <sup>2</sup>	合計床面積 m <sup>2</sup>	乗ずる数値	必要軸組長
2	X 上	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
	X 下	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
	Y 左	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
	Y 右	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
1	X 上	18.47	0.00	18.47	0.330	6.096
	X 下	31.96	0.00	31.96	0.330	10.547
	Y 左	21.14	0.00	21.14	0.330	6.977
	Y 右	22.47	0.00	22.47	0.330	7.416

側端部分必要軸組長算定表

階	方向	床面積 m <sup>2</sup>	物置等 m <sup>2</sup>	合計床面積 m <sup>2</sup>	乗ずる数値	必要軸組長
2	X 上	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
	X 下	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
	Y 左	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
	Y 右	12.63	0.00	12.63	0.210	2.653
1	X 上	18.47	0.00	18.47	0.330	6.096
	X 下	31.96	0.00	31.96	0.330	10.547
	Y 左	21.14	0.00	21.14	0.330	6.977
	Y 右	22.47	0.00	22.47	0.330	7.416

接合部凡例

記号	仕様	N	倍率
い	短ほぞ差し、かすがい打ち	0.00	
N	長ほぞ差し込み柱打ち	0.70	0.70
L	L字型金物	0.50	0.70
V	V字型金物	0.00	1.00
T	T字型金物		1.00
P	に 羽子板 $\times$ 1 $\times$ 1 $\times$ 1	1.40	1.40
I	に 短冊金物		1.40
P s	ほ 羽子板 $\times$ 1 $\times$ 1 $\times$ 1 $\times$ 50	1.60	1.60
I s	ほ 短冊金物 $\times$ 1 $\times$ 1 $\times$ 50		1.60
2	へ 10KN用引き寄せ金物	1.80	1.80
3	と 15KN用引き寄せ金物	2.80	2.80
4	ち 20KN用引き寄せ金物	3.70	3.70
5	25KN用引き寄せ金物	4.70	4.70
32	15KN用引き寄せ金物 $\times$ 2	5.60	5.60
J1	る 腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板 $\times$ 1 $\times$ 1 $\times$ 1、短冊金物		1.90
J2	を 腰掛け蟻若しくは大入れ蟻掛け+羽子板 $\times$ 1 $\times$ 1 $\times$ 1、短冊金物 $\times$ 2		3.00

筋かいの種類に応じた筋かいの端部の接合部の仕様

筋かいの種類	接合部の仕様(構造方法)
鉄筋 9	柱又は横架材を貫通し、三角座金を介してナット締め、又は鋼板添え板を用い鋼板を柱及び横架材にCN90、8本平打ち
筋かい1:15 $\times$ 90	柱・横架材を欠き込み、柱・横架材双方に対してN65、5本平打ち
筋かい1:30 $\times$ 90	鋼板添え板 $t=1.6$ mmを筋かいに対してボルト 12及びCN65、3本平打ち、柱に対してCN65、3本平打ち、横架材に対してCN65、4本平打ち、筋かいプレートBP同等品
筋かい1:45 $\times$ 90	鋼板添え板 $t=2.3$ mmを筋かいに対してボルト 12及びビスクリュー釘 4.5L50、7本平打ち、柱及び横架材に対してビスクリュー釘 4.5L50、5本平打ち、筋かいプレートBP-2同等品
ホ	筋かい1:90 $\times$ 90 柱又は横架材にボルト 12mmを用いて一面剪断接合

胴差と通し柱の接合部の仕様

胴差と通し柱の条件	仕口
T1 通し柱の片側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、羽子板ボルト、かね折り金物又は同等以上の仕口
T2 通し柱の両側に胴差が来る場合	胴差を柱にかたぎ大入れ短ほぞ差しの上、短冊金物又は、同等以上の仕口で胴差相互を繋結
T3 通し柱と胴差の接合部の近くに90 $\times$ 90以上の筋かいが来る場合(通し柱が建物の出隅にあるが、筋かい壁が外壁と直交して接する場合)	胴差を通し柱に、15KN用引き寄せ金物を水平に用いて繋結

側端部分存在軸組長算定表

階	方向	記号	倍率	長さ	個所	軸組長	合計
2	X	上 W3	2.0	1.365	1	2.730	8.190
		下 W3	2.0	0.910	3	5.460	
		W3	2.0	0.930	1	1.860	
	Y	左 W3	2.0	1.860	1	3.720	5.540
		右 W3	2.0	0.910	1	1.820	
		W3	2.0	1.860	1	3.720	
1	X	上 W3	2.0	1.365	4	10.920	14.640
		下 W3	2.0	0.950	1	1.900	
		W3	2.0	0.910	1	1.820	
	Y	左 W4	4.0	0.910	4	14.560	14.560
		右 W4	4.0	0.910	2	7.280	
		W3	2.0	0.910	2	3.640	
	右	W4	4.0	0.910	2	7.280	11.000
		W3	2.0	0.950	1	1.900	
		W3	2.0	0.910	1	1.820	

壁釣り合い判定表

階	方向	必要軸組長	存在軸組長	壁量充足率	壁率比	判定	
2	X	上	2.653	8.190	3.087	0.893	OK
		下	2.653	7.320	2.759		
	Y	左	2.653	5.540	2.088	1.000	OK
		右	2.653	5.540	2.088		
1	X	上	6.096	14.640	2.401	0.574	OK
		下	10.547	14.560	1.380		
	Y	左	6.977	10.920	1.565	0.947	OK
		右	7.416	11.000	1.483		

全ての壁量充足率が1を超えているためOK